



歴史やプレーから見えてくる ラグビーならではの 本質を知り、 魅力を感じて

神戸親和女子大学 発達教育学部ジュニアスポーツ教育学科
教授 **平尾 剛** 氏



世界的なスポーツの祭典を神戸で目の当たりにできる、ラグビーワールドカップの開催が迫ってきた。ラグビーの歴史やルール、スポーツとしての本質的な魅力を知ると、ラグビーを観る楽しみが大いに増す。神戸製鋼コベルコスティーラーズの選手としてプレーし、ラグビー日本代表としても活躍した、神戸親和女子大学教授の平尾氏に聞いた。

―ラグビーの歴史は

元は英国の街々で行われていたお祭りです。街の人たちが2つのチームに分かれ、ほぼ1日かけてボールを奪い合っていた「民俗フットボール」が源流といわれます。死人やけが人が出るほど荒々しかったため、度々イングランド国王から禁止令が出されたといいます。そこで、より楽しく安全に楽しめるルールを整備するために、パブリックスクールの教材として導入され、ルール整備のプロセスにおける考え方の違いから、「サッカー」と「ラグビー」に分かれました。手の使用にこだわったグループの中心が、イギリスで有名なパブリックスクールのひとつ、ラグビー校だったことから「ラグビー」という名称になりました。ラグビー

には富裕層のファンが多いと言われますが、その所以がここにあります。

―ラグビーの魅力は

私は中学1年の時に友人に誘われ、ラグビー部に入部しました。足が速かったこともあり、初めて出場した試合でトライ（得点）できたことがうれしかったのを覚えています。バスケットボールやサッカーのように特別なテクニックのいるドリブルが出来ずとも、ボールを持って自由に走り得点できるスポーツである、というのがラグビーの最大の魅力です。たとえるならばボールを使った鬼ごっこですね。

試合を見ていると分かるように、監督やヘッドコーチは観客席で観戦しています。試合中に監督が指示を

出すことは可能なのですが、選手の主体性に委ねられています。前回のワールドカップでは、日本対南アフリカの試合の終盤、キックで同点を狙うよう指示を出したヘッドコーチのエディ・ジョーンズに対し、主将のリーチ・マイケルはトライを狙いにいって、見事に逆転勝利を決めました。監督の命令よりもグラウンドレベルにいる選手たちの判断が尊重されるんです。

体がぶつかり合う激しいスポーツですが、攻撃性が暴走することの無い点もラグビーらしさです。選手は、闘争心はコントロールするものだと思われ、他のスポーツのように殴り合うような乱闘シーンは珍しいですし、絶対に手は上げません。審判に対する敬意も強く、その判定は絶対です。他のスポーツで見られるような、審判の判定に対して抗議の意を示す派手なジェスチャーには、今でも違和感を覚えます。

そしてゲームが終われば、勝者も敗者もなく相手を称え合う「ノーサイド」精神もラグビーの特徴です。ラグビー専用競技場としてつくられた東京の秩父宮ラグビー場には、当

時お風呂は1つしかなかったのもその表れです。また、大学や社会人の試合では、試合後に両チームの選手と審判が正装で同じテーブルにつき、軽食を取りながら試合を振り返る「アフターマッチファンクション」が必ずありました。

―日本でワールドカップが開催される意義は

ラグビーには、「ティア」と呼ばれるランクがあり、最上位に位置する「ティア1」の10カ国（ニュージーランド、イングランド、オーストラリア、アイルランド、南アフリカ、ウェールズ、スコットランド、フランス、アルゼンチン、イタリア）がいわゆる伝統国で、これまでの開催地もその中から選ばれてきました。それだけに、日本（ティア2）で開催されると決まった時は非常に驚きました。世界統括団体であるワールドラグビーにも、新たな市場を開拓したいという思惑もあったのでしょうか。アジアでは初開催となります。

日本におけるラグビー人口は、少子化に加え、けがの多いスポーツと

のイメージがあり、残念ながら減少傾向にあります。ワールドカップを機にラグビーの持つ魅力が広がることを願っています。

小学生くらいの子どもにとってラグビーを始めることの良さを挙げると、上手な転び方を覚える、ということです。その後どのようなスポーツをしても、また、日常においても大きなけがをしないことにもつながります。そして、何より頭を使うスポーツだということです。ラグビーのジャッジは審判自身の裁量の余地が大きく、審判ごとに個性があります。世界ナンバーワンのフランカーとして活躍し、チームのキャプテンも努めたニュージーランドのリッチー・マコウは、序盤に反則ギリギリのプレーをして審判のクセを見極め、それをもとにゲームの戦略を構築する、と言います。その場の状況に合わせて判断し、ゲームを組み立てる力を問われるのがラグビーというスポーツです。また、ボールを前に投げられないが前に進まなければならないという矛盾を孕んでいますから、どうやって前に進むのか、どうすれば敵のディフェンスを破れる

か、という戦略も求められます。

―観戦する人には、どんな楽しみ方をしてほしいですか

ラグビーが浸透している国では、試合だけではなく、試合のある1日を存分に楽しめます。朝から仲間とビールを飲んでその日の試合のことを語らいながら、そのまま試合会場ではやはりビールを飲みながら観戦し、試合後もまた飲みながら試合のことをネタに語り明かします。私も日本代表としてウェールズを訪れた時には、夜の街でウェールズ人たちに歓迎され、ラグビー話に花を咲かせました。

また、試合会場では、サッカーなどの会場との違いを感じることでしょう。会場は敵味方で同じサイドで固まって派手に応援するような風景は見られず、両チームの応援者が隣同士に座っている、ということが当たり前です。サッカーの試合で時々問題になるフーリガンのような暴れ者もいません。応援する人たちも敵味方関係なく、ラグビーという共通語で一体になれるということ、そして、勝ち負けの結果だけに捉われない、スポーツ本来の良さを知ってもらえる機会になればと願っています。

ラグビーに関心を持った人たちが、 安心して楽しめる土壌づくりを

兵庫県ラグビーフットボール協会 書記長 **中島 誠一郎** 氏



ラグビーが早くから根付いた兵庫・神戸はラグビーが盛んな地域でもある。ラグビーへの関心が高まる中、兵庫・神戸では、競技の普及に向けてどのような取り組みが行われているのか。競技者を取りまとめる兵庫県ラグビーフットボール協会書記長の中島誠一郎氏に聞いた。

―兵庫・神戸とラグビーの関わりは

ラグビーは19世紀にイングランドで発祥したスポーツで、日本ではイギリス人の船員によって1874（明治7）年に初めてラグビーの試合が行われました。その2年後の1876（明治9）年、神戸港に寄港中の英国軍艦船員と外国人スポーツクラブ「神戸レガッタ&アスレチッククラブ（KR&AC）」の対戦が、神戸で初めて行われたラグビーの試合とされています。

現在の日本におけるラグビー人口は全人口の0.01％の約11万人で、野球の0.95％、サッカーの0.7％などと比べるとまだまだ少ないのが現状です。ただ、兵庫県はそのような古い伝統を引き継いでいることもあり、東京、大阪、横浜などに次ぐラグビー人口の多い地域です。小学生から社会人、男女124のスクールや

クラブチームが協会に所属しており、全国クラスのチームも多いです。

―協会では、どのような普及活動に取り組んでいるのでしょうか

前回の2015年ワールドカップで日本が南アフリカに勝つ活躍を見せたことで関心が高まり、ラグビーを始めたいという子どもたちが増えました。ただ、指導者の数が追いついていないなど、受け入れきれない状況になってしまっているところもありました。現在は、指導者、レフェリーの育成研修に力を入れているほか、試合中にケガをした場合に迅速に対処に当たるセーフティマネジメント講習なども行って、安全対策にも努めています。また、この10年来、地元テレビ局で県内のラグビーの活動を取り上げた番組を年に1回放映し



ています。

今年のワールドカップ開催に向け、当協会ではラグビーを「する」「みる」「ささえる」、そして、ラグビーを通じて「つながる」「あつまる」ための環境整備を進めています。ラグビーへの関心を高めるべく幼児から中学生を対象にした「ラグビー体験教室」を開いているほか、一般の人にもラグビーの楽しさを知ってもらおうと、昨年および今年の5月には、大丸神戸店東側の道路で「ストリートラグビー」のイベント開催に協力しました。コンパクトなフィールドをしつらえ、タックルではなくタッチで相手を止めるやり方で、ゲームを通じてラグビーの魅力を伝えました。

―ワールドカップ目前。ラグビーに関心を持つ人たちも増えています。協会として今後どのような取り組みに力を入れていこうとお考えですか

なんといっても日本代表の活躍に期待しています。決勝トーナメントへの進出を果たしてほしいですね。大会を契機にラグビーをしたいという子どもたちがまた増え、ラグビーの魅力が広がっていけば、おのずと観に行きたいという人も増えてくることでしょう。ラグビーの盛んな欧州では、ラグビー観戦は大人の社交場としての役割も果たしています。老若男女、たくさんの人にラグビーに触れてもらう機会を提供していきたいと思います。

また、競技の現場も変わりつつあり、特に子ども向けのスクールでは、勝つことよりもまずラグビーの楽しさを理解できるような指導法に変わってきています。スポーツが真に地域コミュニティの形成に役立てるよう、ラグビーの普及活動を通じて、その一翼を担っていきたくと考えています。

ルールを知って、 ラグビー観戦を楽しもう！

「ラグビーは、ボールを手と足で自由に運びながら相手の陣地を取り合う、陣取りゲーム」と例える平尾氏。これを覚えていればもっと試合を理解できる、というルールを教えてもらった。

〈得点方法〉

- ◆トライ（5点）
相手のゴール陣地（インゴール）地面にボールをつける。
- ◆コンバージョンキック（2点）
トライ後にゴールキックを成功させる。
- ◆ペナルティゴール（3点）
相手チームが重い反則をした際に得られるゴールキックを成功させる。
- ◆ドロップゴール（3点）
プレー中にゴールキックを成功させる。

〈よく起こる反則〉

- ◆スローフォワード
ボールを持ったプレイヤーが、前方にボールを投げる反則。「ボールを持った者が常にプレーの最前線でなければならない」という考え方に基づくといわれる。
- ◆ノックオン
プレイヤーがボールを前に落としてしまう反則。「ボールを大事に扱いなさい」という意味が込められている」という。
- ◆ノットリリースザボール
グラウンドに倒れた選手はその場でボールを離さなければならない、離さない場合に適用される反則。「立ってプレーをする」という原則を守るためのもの。
- ※アドバンテージルール
反則が生じた際、その相手側に有利にプレーが動いていると審判が判断した場合、すぐにプレーを止めずに試合を継続させるもの。その後の状況によって、そのまま継続する場合と、反則時に戻す場合がある。

ラグビーワールドカップを 観にこう！

「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」
神戸開催 試合情報（会場：神戸市御崎公園球技場）



9月26日(木) 19:45キックオフ
イングランド VS アメリカ



9月30日(月) 19:15キックオフ
スコットランド VS サモア



10月3日(木) 19:15キックオフ
アイルランド VS ロシア



10月8日(火) 19:15キックオフ
南アフリカ VS カナダ



チケット購入は公式ウェブサイトから <https://tickets.rugbyworldcup.com>